

# 「本気の子育て支援」3つの提案

岸田政権が「異次元」と宣伝する少子化対策。しかし政府の「子ども未来戦略方針」素案は全くの看板倒れ。共産党の志位和夫委員長は3日、横浜市での演説で「本気の子育て支援」として3つの提案を行いました。

## 志位委員長が訴え

素案で大きな予算を投入するのは、児童手当の拡充や所得制限の撤廃くらい。これに対し志位氏は、次の提案を行いました。

- ①子育て教育にかかわる「お金」の心配をなくす 学費は無償をめざし半額▽入学金廃止▽奨学金を貸与から給付に▽返済中の奨学金は半分免除▽学校給食費無償化。
- ②学校、幼稚園、保育園などの子どもたちのための「人」を増やす 教員不足が大問題―抜本的増員で30人学級を実現▽保育士不足も深刻―処遇改善と配置基準の引き上げで増員を。



訴える志位和夫委員長(中央) 3日、横浜市中区

## 日本共産党

③安心して子育てできる「働き方」 労働法制の規制緩和で、働く人の4割、女性や若者の5割が非正規雇用。これでは結婚して子どもを産み育てる展望を持つことができません。▽非正規は臨時的・一時的仕事に限り、希望するすべての人を正社員に▽「家事も育児も一人でワンオペ」という多くの女性が置かれている状況を変えるため、長時間労働や単身赴任の規制など、子育てと両立できる働き方を実現する。

## 大軍拡・大企業優遇―「もとから変える」改革こそ

「子ども未来戦略方針」素案の財源確保策は年末までに先送りされました。素案で明確なのは、高齢者向けの社会保障給付を徹底的に削ることだけ。こんなことになるのは、5年間で43兆円

の大軍拡をすすめ、大企業・大金持ち優遇にメスを入れないからです。

まともな少子化対策も、共産党が主張する、政治のゆがみを「もとから変える」改革でこそ可能です。

## 共闘再構築は誠実に追求

解散・総選挙含みの緊迫した情勢の下、共産党は小選挙区でも積極的に擁立を進めています。目標は、「650万票、10%以上」を得て、すべての比例ブロック(全国11)での議席獲得・議席増、小選挙区では沖縄1区の議席確保、議席増をめざします。

野党間の選挙協力について小池晃書記局長は、①共闘の意思の確認②共通政策の一致③政党間の対等・平等、相互尊重を原則とし、「共産党の方だけの一方的対応はしない」と強調しました。

立民の泉健太代表は共産党との選挙協力や候補者調整はしない考えを述べています。しかし今ほど野党共闘が重要なときはありません。共産党は党の側から共闘の門戸を閉ざすことはせず、共闘の再構築を誠実に追求します。

## 維新代表 梅村氏デマ発言を擁護

維新の梅村みずほ参院議員が、スリランカ女性が名古屋入管で死亡した事件をめぐる「詐病の疑い」などとデマ発言。これについて維新の馬場伸幸代表は「何か間違っているということではない」「質問のテクニクともいえる」と擁護しました(5月25日)。維新の人権感覚が問われます。